

ひゅうまにあ通信

Vol.83

2024.03



地域づくり講演会トークセッションの様子

Contents

ぐんま地域づくり AWARD 2023	02
地域づくり講演会	06
地域づくり実践講座	08
市町村担当職員交流会・地域づくりネットワーク	10
事務局からのお知らせ	11
ぐんま地域づくり AWARD 2024	12

ぐんま 2023

地域づくりAWARD

群馬県地域づくり協議会では、「ぐんま地域づくり AWARD」を設け、活力ある地域づくりに取り組んでいる優れた団体等を顕彰しています。

2023年度は、13団体から応募があり、第1次、第2次審査の結果、「薄根地域ふるさと創生推進協議会」が大賞、「おむすびの会」、「一般社団法人ハレルワ」の2団体が奨励賞に輝きました。受賞おめでとうございます。



記念写真：受賞団体、審査員のみなさん

審査員講評



読売新聞東京本社前橋支局 金杉 康政 支局長

今回、13団体から応募がありましたが、それぞれの団体が非常に高い問題意識を持って活動していることがわかりました。

特に、受賞した3団体については、いずれも地域に根ざした活動であり、地域への貢献度が高いものでした。今回の受賞を励みに、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

日本放送協会前橋放送局 西村 理 局長

どれも秀逸な取り組みばかりで、甲乙付けがたいというのが正直な感想です。受賞団体の活動の特徴として、地域資源を活用していること、人と地域を結ぶ活動であること、誰もが安心・安全に暮らせる活動であること、などが挙げられます。こうした地域の活動が他地域へも波及していくことを期待しています。





ぐんま地域づくり AWARD 大賞

うすね 薄根地域ふるさと創生推進協議会 (沼田市)



受賞コメント

まさか受賞できるとは思って
いなくて、大変光栄に思ってい
ます。

受賞は励みにもなりますし、
「地域の人みんなで取った賞」
ということで、地域の連帯感を
高める上でも意義があると思
います。また、私たちの取り組
みをみんなに知ってもらえる、
その宣伝効果も大きいと思っ
ています。

活動内容

首都圏の都市住民を対象とした棚田のオーナー制度や味噌づくり体験、野菜・果樹収穫体験事業など、都市住民との交流促進を目的にした活動に取り組んでいます。

最近では里山の自然環境の保全とホテルの復活を目指して、地元の薄根小学校の児童に協力してもらい『カワニナ養殖事業』を手がけました。また、地元住民やボランティア、地元の薄根中学校の生徒の協力により、棚田にソーラーライトを設置して、イルミネーション点灯イベントを開催したりと、精力的に活動を続けています。



棚田オーナーによる田植え体験



薄根小学校児童による「カワニナ」の放流



棚田でのイルミネーションイベント

受賞団体からのメッセージ

外から人が入ってくることで、新しい風が吹き、新しい視点で物事が見られるようになります。私たちにとっての日常やこれで良いのかなと思うことも、変に手を加えず、そのままの方が良かったりします。同じものでも、見せ方によって伝わるものが違います。このように、外から人が入ってくることは、活動の幅が広がり、地域の活力にもつながるので、我々としてもありがたいと思っています。私たちの活動に興味のある方は、ぜひ遊びに来てください。

審査員からの主なコメント

- 地域の課題を的確に捉えて、解決に向かう地域づくりの活動として理想の形のひとつではないか。
- ふるさとを誇りに思う地元の皆さんの熱意が、カワニナ養殖をはじめ、棚田の再生、ホテルの復活、味噌づくりなど、次々に形になってあらわれ、好評を博している。地域資源を丸ごと活用した取り組み。
- 長期的に地元を再生していくビジョンがしっかりとしている。



おむすびの会 (桐生市)



受賞コメント

こうした表彰制度に申し込んだのは初めてで、受賞できるとは全然思っていませんでした。

初めて私たちの取り組みが評価され、すごく興奮しました!! 私たちの活動を肯定してくれる方がいたことが嬉しかったですし、今後のやる気にもつながりました。

活動内容

3年先でなく、30年先の視点で子ども達に今必要なものは何かを考えて活動を行っています。地域の人達の協力を得ながら、子どもだけでなく親にとっても学びに繋がる催しを企画運営しています。孤立しがちな育児期の母親達が得意を活かし、子連れでも出店できるマルシェを2019年より開催しています。コロナ禍の休校中は子ども預かりを実施し、毎日様々なジャンルの体験講座を開催して行き場を失った子どもと親に居場所と学びを提供しました。その経験をもとに大人達が自らの職業や特技を子どもたちに伝える「きりゅう・まちの先生見本市」の企画を2022年より開始。毎回多くの人で賑わいます。



わがままマーケット



古民家での子ども預かり



きりゅう・まちの先生見本市

受賞団体からのメッセージ

もちろん、できないこともあるのだけれども、やらないで諦めるのはもったいないと思っています。育児をしていると辛いことや大変なこともあります。どうせやるのであれば楽しく、より良い方がいいと思っています。何かをやりたいという方は、近くの方とでもできますので、ぜひやってみてください。もちろん「おむすびの会」と一緒にやりたいという方がいれば、大歓迎です。

審査員からの主なコメント

- 「子育て世代のあったらいいな」、「自分でできること」から始まり、地域の力の向上につながっている。企画力の高さ、実現まで時間をかけずスピーディに実施しているところが素晴らしい。
- 人と地域をむすぶ実効的な子育て支援策。何よりも主催者をはじめ、親御さん自身が楽しく参加できるコンセプトに共感しました。
- 育児中の母親は子どもがいることを理由にやりたがらないネガティブ思考になりがち。こういったポジティブに転換できる希望は、これからの時代に必要。



ぐんま地域づくり AWARD 奨励賞

一般社団法人ハレルワ（前橋市）



受賞コメント

「地域づくり」ということで、ハレルワの活動と異なる部分があるかもしれませんが、地域にLGBTQ（※）の方々がいることを知ってもらう機会になればと思い応募しました。

受賞によって多くの人にLGBTQのことを知ってもらいきっかけになり、とてもうれしく思っています。

※LGBTQ…レズビアン／ゲイ／バイセクシュアル／トランスジェンダー／クエスチョニングの頭文字を取って名付けられた総称

活動内容

2015年からLGBTQ当事者の交流・居場所づくり・相談支援事業、講演やイベント等の啓発活動、行政組織・他団体と連携した活動を行っています。LGBTQは人口の約10%と言われ、子どもから大人、高齢者まで、あらゆる世代のLGBTQ当事者とその家族・学校・職場がサポートの対象です。2021年7月、前橋市のオリオン通り商店街にコミュニティスペース「まちのほけんしつ」を開設しました。



コミュニティスペース「まちのほけんしつ」



東京でのLGBTQパレードに参加



LGBTQフレンドリーな店舗

受賞団体からのメッセージ

ハレルワは「群馬はすでに虹色である」というスローガンを掲げています。LGBTQの当事者やLGBTQの味方だと思っている個人や企業はすでに群馬中にあるはずで、その繋がりの輪を広げ、可視化していくことによって、LGBTQにフレンドリーな地域をつくっていきたいと思い、活動しています。自分らしく居られる居場所を探している人、相談先を求めている人、あるいはそういう当事者に出会った人は、ぜひハレルワの輪に加わっていただければ幸いです。

審査員からの主なコメント

- 当事者が集まりを地域につくことで安心・安全が得られるものと思います。また、制度にも踏み込んで活動されていることにも希望を感じます。
- ひとりひとりが自分らしくいる地域づくりのために大切な取り組みをされていると思いました。
- 群馬を離れなくても、居場所があり、相談窓口がある。そんな街づくりこそ、優先度の高い活動だと思います。

地域づくりAWARD × 地域づくり講演会

群馬県地域づくり協議会では、毎年、地域づくりの講師をお招きして「地域づくり講演会」を開催しています。今回は「ぐんま地域づくりAWARD」の表彰式と合わせて実施しました。

2023年度は、「場づくり」のパイオニアである長田英史さんを群馬県庁NETSUGENにお招きし「地域づくりに必要な『場づくり』のコツ～万能な居場所は存在しない～」という演目でお話いただきました。



講師：NPO法人れんげ舎 代表理事 おさだ てるちか 長田 英史 氏

1972年、神奈川県茅ヶ崎市生まれ。NPO法人れんげ舎代表。「場づくり(R)」を通して、新しい生き方・コミュニティを創る仕事を四半世紀。この分野のパイオニア。自分らしく生きたいあなたをサポートする情報を発信中。Voicyパーソナリティ。著書『場づくりの教科書』<https://bazukuringo.com/book.html>
場づくりクラス (NPO法人れんげ舎)<https://bazukuringo.com/index.html>



長田さんの講演

地域づくりに必要な『場づくり』の **コツ** ～万能な居場所は存在しない～

講演では、①場づくりとは ②地域に必要な居場所 ③場づくりのコツの3点を中心にお話をいただきました。今後、地域づくり活動を進める上でたくさんのヒントがありましたが、特に印象に残っている点を記載します。

■ 場づくりとは

「場」とは、主に人のつながり方が生み出す雰囲気や可能性のことを指しており、言い換えると、『人間関係』について述べています。また、「場づくり」と同じように使われる言葉として「居場所」という言葉がありますが、こちらも『人間関係』を指しています。

すなわち、場づくりを行う上で重要なのは『人間関係』であり、人と人のつながりをどのように創っていくのが重要になるというお話がありました。

■ 地域に必要な居場所とは

地域には「みんなの居場所が必要」というコンセプトで、「場づくり」を進めがちですが、公平な居場所を創ろうとするとパブリックな場になってしまい、結局、誰の居場所にもならない(=『万能な居場所』は存在しない)というお話が印象的でした。「単一の場で全てを担わず、選択可能な多様な場」を地域に創ることが重要だというお話がありました。

■ 場づくりのコツ

良い取組事例をみると、どうしても活動内容に注目してしまいがちですが、それ（活動の場）を支えているのは、活動を支える「運営の場」（準備と振り返りの場）であり、良い取組を行うためには、運営の場をいかに充実させるかが重要であるというお話がありました。言い換えると、「運営の場」をないがしろにしてしまったり、その人間関係がぎくしゃくしてしまったりすると良い取組は生まれませんということです。

また、活動にあたり、組織運営の意思決定は、みんなで話し合って納得しながら物事を決める気構えが大切とのアドバイスをいただきました。

トークセッション

講師の長田さんに受賞団体の代表者3名（薄根地域ふるさと創生推進協議会 小池さん、おむすびの会 澤口さん、一般社団法人ハレルワ 間々田さん）を加え、トークセッションを実施しました。コーディネーターは当協議会の沼田会長が務めました。



（左から）長田さん、小池さん、澤口さん、間々田さん、沼田会長

◆ 今回、以下の4点がトークセッションで話題に挙がりました。

- ① 場づくりで工夫してきたこと、苦労したこと
- ② 各団体の活動には、どういった方が参画しているのか
- ③ 今後、活動を進める上で、どういった連携を図りたいか
- ④ 主催者としての楽しみは何か



会場の様子（講演会）

トークセッションは終始、登壇者による軽妙なトークで進行していき、予定していた50分間はあっという間に終了しました。会場の様子を見ていると、登壇者の話を聞きながら、多くの参加者が「うん、うん」と何度も頷いている姿がとても印象的でした。

■ 参加者からの声（アンケート結果抜粋）

- 「課題解決」と気負わずに、まずはとなりにいる誰かと話して活動を始めることが大事だと感じました。
- 自分たちがやっている活動の本質だったり、この先の展望が見えました。
- 活動をしている当人たちが楽しんでいることが大切であると感じました。
- 地域にこのような場があること、それぞれの団体の想いをきけてよかったです。
- 活動の場の成り立ち（1Fと2Fの場）について、万能の場はないので、運営がとても大事であることを学びました。

官民連携まちづくり事業視察ツアー in 伊勢崎中心市街地

今年度のテーマは「官民連携」です。近年、地域づくり分野においても「官民連携」がキーワードに挙げられていますが、具体的にどのように進めればよいのかが分からず、二の足を踏む行政、団体は少なくありません。

そこで、「まきばプロジェクト」の代表であり、当協議会副会長の秋山さんと一緒に『官民連携でまちの活性化』に取り組んでいる伊勢崎中心市街地の視察ツアーを実施しました。



(左から)当協議会の沼田会長、秋山副会長



まちなか高校生フェスタ(駅前広場)

伊勢崎市の取組(まちなか活性化支援会議)

伊勢崎市では、中心市街地における経済活力向上と地域課題の解決を支援するため、令和3年度に「まちなか活性化支援会議」を立ち上げています。この会議は、官民のメンバーで構成されており、各メンバーの専門性を活かし、まちなかの活性化に資するさまざまな取り組みを自ら実施しているほか、こうした取り組みを行う団体などへの支援も行い、まちなかにおける新たな価値の創出を目指しています。

秋山さんから「いまの伊勢崎市の取組があるのは、『まちなか活性化支援会議』がきっかけで、色々な団体や個人が活性化のために一緒に取り組むことができるようになってきたから。一緒にやることで、お互いの不足する部分を補うことができ、大きな成果が出るようになってきた。伊勢崎ではそういう環境が整ってきた。」とのお話がありました。参加者からは、「官民連携のためには、こうした土台づくりが大切」という感想が多くありました。

官民連携のポイント

Point① 住民、地域との距離感

視察ツアーの中では、行く先々で秋山さんが多くの方々から声を掛けられていました。当日のイベントの感想やプロジェクトの進捗報告。さらには、今後の企画の相談など、気軽に話のできる関係性こそが「官民連携」を進める上で重要だと感じました。

これらの関係はすぐに構築できるものではなく、地域に入って住民の方々のお話をしっかりと聞き、対話を重ねる。こうした積み重ねで信頼関係が構築され、現在の関係性が成り立っているものだと思います。



ストリート駅ピアノ(伊勢崎駅)



いせさき骨董市銘仙市(大手町パティオ)



いせさき明治館



いせさき軽トラ市



伊勢崎まちなか新名所



伊勢崎神社

Point② 行政は通訳者であり、井戸を掘る役割

今回、秋山さんと一緒に伊勢崎市商工労働課の石原さんが同行してくれました。

参加者からの「公共空間を使ったイベントはハードルの高い印象がある。どうやったら、こんなに公共空間を活用（開放）できるようになったのか。」という質問に対して、石原さんからは「我々は通訳者。運用ルールの中で、どうやったら民間団体のやりたいことができるのか。『その方法だと難しいかもしれないけれど、これだったらできるのでは?』と一緒に考え、市役所内の関係課と調整を行う。そんな通訳者としての役割を担っています。」とお答えいただきました。

秋山さんからも、伊勢崎市役所の方が「水を与えるのではなく、井戸を掘ることをやりたい。（与えた水は使ってしまったら終わりだけれども、そうでない支援を行いたい。）」という考えをお持ちで、それが市役所の内部でも浸透していき、公共空間の活用や官民連携が進むようになったとの説明がありました。



視察後の意見交換



(左から)秋山さん、石原さん

参加者からの声

- 色々な団体が連携し合って、行政も仲介をしながら、一堂に会するのは、凄く時間を掛けて、理解し合いながらここまで来たのかなと。みんな自分の言い分だけになりがちですが、ここまで仕上げたのは凄い。
- 活動を起こす人、事を起こす人がたくさんいれば、地域はより良くなると感じました。誰かが頑張るのではなく、同時多発的に色々な人が色々な形でやるのがとても大事だと思いました。また伊勢崎に遊びに来るのが楽しみです。
- 今回の実践講座に参加してみて、行政としては、プレイヤーが活躍できる土台づくりを進めること、プレイヤー同士を繋げてあげることの大切さを学んだので、今後に活かしたいと思いました。
- 伊勢崎市商工労働課の「ニーズは市役所の中にはない、持ってる方の意見を市役所のルールでどう形にするかです。」という言葉が印象に残っています。他の市町村でも、このような形が広がっていけば、きっと地域はもっと良くなると感じました。



市町村担当職員交流会

開催日: 令和5年9月29日

場所: cafeあすなる(高崎市)

本交流会は、①各市町村の地域づくり担当者同士の横のつながりをつくること②業務を進める上で、日頃から感じている課題や悩み、苦労している点などを共有することを目的に昨年度から開催しています。

当日は24名の市町村担当者の方々に参加いただき、代表市町村(高崎市、藤岡市、下仁田町)からの事例紹介の後、グループワークを行いました。



振り返り

参加者からは、「他地域の課題を知ることができて勉強になった」、「人の集め方、コミュニティの作り方は参考になった」といった感想がありました。

一方で、「地域づくりを行うにも地域に人材が不足しており、誰が担っていくのか。地域の話になると区長さんが挙がるが、既に多岐に渡り仕事があり、難しいというのが正直なところ。こういった課題にどう向き合っていくべきか、ここにいるみんなでも検討していきたい。」といった問題提起もありました。



地域づくりネットワーク

開催日: 令和6年2月8日

場所: オンライン

本ネットワークは、地域づくり団体同士、また地域づくり団体と行政とのつながりをつくるため、令和3年度から開催しています。

当日は29名の方々に参加いただきました。最初に当協議会の運営委員(代表5団体)から、地域づくりに対する想いや活動を行う上で気をつけていることなどを発表いただき、その後、参加者を3グループに分けて意見交換を行いました。



振り返り

参加者からは、「長く活動されている団体の皆さんが、とても楽しく取り組まれているところが印象的。そこに活動を継続していくヒントがあると思った。」、「他団体の活動内容を知れたのはもちろんのこと、交流会がグループと全体の2段階に分かれていたので、少人数でも意見交換できたのが良かった。」といった感想や「課題や悩みなどが共有できてよかった」、「皆さんの活動に対する熱量に圧倒され、志高く前向きな言葉をいただいた」といった声もありました。

事務局からのお知らせ



- 通信でご紹介した各事業の詳細はnote(SNS)で公開しています
各イベントや事業レポート情報はこちらをご覧ください



要チェック!!



note 令和5年度事業一覧 ▲

note「群馬県地域づくり協議会」TOP ページ

当協議会が開催するイベントの詳しい情報や開催内容を note にまとめています。皆さまの地域づくりのヒントになると思いますので、ぜひご覧になってください。

今回紹介しきれっていない「第39回地域づくり団体全国研修交流会島根大会」の参加レポートや当協議会の民間団体運営委員の皆さまの自己紹介も記事にしています。

note は、**会員登録等をしなくても** WEB サイトから閲覧することができます。



群馬県地域づくり協議会 情報メール
令和5年度 第24号 (5.12.26)

■富岡市・群馬県・群馬県都市計画協会からのお知らせ
【令和6年2月3日(土)】令和5年度 景観まちづくり講演会
「里山景観は、誰のもの？」
～二拠点生活の視点で地域の景観を考える～ 参加者募集！

【日時】
令和6年2月3日(土) 14:00～16:00 (13:30～受付)

【場所】
富岡製糸場 国宝 西置蔵所 多目的ホール

メールマガジンの一例

■ メールマガジンの登録団体募集中

メールマガジンにて、当協議会のイベント情報をはじめ、構成団体や地域づくり団体全国協議会（一般財団法人地域活性化センター）のセミナーや研修事業など、地域づくりに関連する様々なイベント情報を発信しています。

メールの件名を「地づ協メルマガ申込」とし、本文に*（1）所属名（2）氏名（3）電話番号（4）メールアドレスをご記入のうえ、chiikisien@pref.gunma.lg.jp までお送りください。※個人でも可。

2024 ぐんま地域づくり AWARD レポート募集



群馬県地域づくり協議会では、県内で活発に地域づくり・ひとづくり活動に取り組んでいる団体・企業・商店街・学校等を顕彰しています。ぜひ皆さんの活動に対する想いや内容をレポートにして、応募してください!!
詳しい応募方法は、「群馬県地域づくり協議会」ホームページをご覧ください。

対象

活動歴 **2年以上**（令和6年5月1日時点）で
地域づくり・ひとづくり活動に
取り組んでいる団体・企業・商店街・学校等



群馬県地域づくり協議会
レポート募集ページ

応募方法

- 提出書類
①応募用紙（ホームページ参照）
②応募レポート
③写真（5～6枚程度）
④その他（任意）
- 提出期限
5月10日（金） 必着
- 提出方法
E-mailまたは郵送にて

審査

- 一次審査
書類審査
- 二次審査
プレゼンテーション（10分程度）
により審査
審査日 **6月下旬（予定）**
※二次審査は、一次審査を通過した団体等のみ実施します